

現代人のカルテ

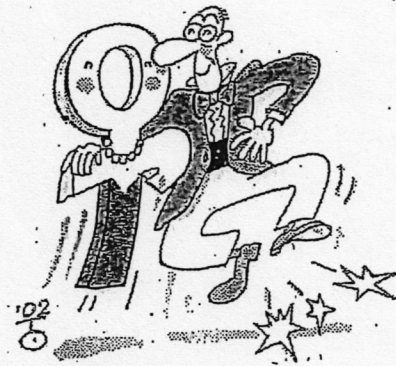
前立腺がんの再燃

Kさん(72)は二年前、尿の出方が悪く、近所の開業医の診察を受けた。前立腺が少し大きくなっており、薬を毎朝服用し、たらいくぶんよくなった。

念のために前立腺がんの検査を勧められ血液を調べた。前立腺がんだと血中濃度が高くなる前立腺抗原(PSA)の値が随分高かった。専門医のいる病院に行くよう指示された。

超音波検査、磁気共鳴画像装置(MRI)やコンピュータ断層撮影装置(CT)を使った検査、組織の一部を採取して分析する生検などの結果、進行した前立腺がんだった。しかも、がんは前立腺から精囊(せいこの)のほか、腰椎(けついつい)の骨盤に転移していた。

ホルモン療法 研究進む



イラスト・及川 百合子

入院して女性ホルモン剤の点滴を毎日することとなった。幸いこれが効いているようでPSAはまだ低下している。……

がんが転移していなければ手術や放射線治療が可能だが、転

根治は望めないが抗男性ホルモン療法でしばらくは大丈夫と説明され、治療が始まった。四週間おきに通院し、男性ホルモンを抑える薬の注射を受け服用薬ももらった。当初、三六五だったPSAの値は〇・二に下がった。腰痛もよくなったようだ。

ところが、約一年半たってPSAが少しずつ上昇していた。別の抗悪性腫瘍(じゅよう)剤を用いたがあまり効果がな

研究が進められており、いずれ成果が治療に役立つだろう。現状では、Kさんのように女性ホルモンを用いたり他のステロイドホルモンを内服してみたり、また高齢者には副作用の心配があるが抗がん剤治療をする。

(大阪市立大学大学院助手  
川嶋 秀紀)